

高齢者の暮らしと生命を守る取組みを強化

全自交シニアの会も参加

2012年9月15日 全国退職者・年金生活者・高齢者のパワーを結集した「2012 全国高齢者集会」に全自交シニアの会が参加



国の退職者・年金生活者・高齢者のパワーを結集した「2012 全国高齢者集会」が9月15日に東京都千代田区日比谷公会堂で全国から2千名が参加して開かれました。主催は連合系の「日本高齢・退職者団体連合」で、集会では、後期高齢者医療制度の廃止と新医療制度の早期実現や介護保険制度の充実などを目指した集会アピールを採択し、全参加者で東京駅まで、デモ行進をして道行く人に、高齢者の声を訴えました。

高齢者集会は毎年9月15日に、連合系の各産別組織のOB・OGで組織されている「高齢者・退職者連合」の会員が、全国から集まって開催されているもので、「全自交兵庫地連シニアの会」も参加しました。

集会は、主催者代表あいさつで、阿部保吉会長より「政府の社会保障・税一体改革では社会保障制度は棚上げされた。公的年金等控除及び高齢者控除の復活は放置したまま、特例水準の年金2.5%の削減を実施、保険料が急増する後期高齢者医療制度の廃止は棚上げにされ、消費税増税のみが実施されたのでは、高齢者の暮らしは維持できない」と野田政権を批判し、「高齢者の暮らしと生命を守る取組みを継続・強化しなければならない」と決意を明らかにしました。来賓には、南雲弘行連合



事務局長、藤田一枝厚生労働大臣政務官などが出席し、連帯の挨拶を述べました。羽山治美事務局長が基調報告し、福島、大阪、沖縄の地方代表から発言があり、参加者にさまざまな問題提起や報告がされました。集会アピールを採択した後、参加者2千名が全員で、かんかん照り30度を越える中、銀座通りを経て、東京駅までデモ行進をしながら、高齢者が安心して暮らせる日本社会の実現を強く訴えました。

尚、兵庫地連では、兵庫地連シニアの会を作って、連合兵庫の兵庫高齢者・退職者連合に加盟し高齢者問題に取り組み、2012全国集会に参加しました。